



はなえみ

2024
隔月刊
3月号
NO.155

公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会

◆ Special Interview

写真で戦争の愚かさを伝え
平和のために声を挙げていきたい
相手に惚れなければ、心を開いてもらえる良い取材はできない。



写真家 大石 芳野さん…1

●MOVEMENT ①…6

令和5年度「家政士」検定試験では76名の方々が合格!
全国で「家政士」資格を持つ人は、839名となりました。

●SPOT LIGHT ①…7

コロナ禍脱出の今!
新しい時代の動きをキャッチしよう!

●SPOT LIGHT ②…8

SDGウェディングケーキモデルを念頭に置き、
日々の心がけを大切に!

●MOVEMENT ②…9

物価高の中、タイミングの良い賃金改定を行い
家政婦(夫) 求職者の確保と定着を!

花知識◆ブルースター(オキシペタラム)

●和名は、ルリトウワタ(瑠璃唐綿)。

透き通るような美しい青色の清楚な花姿で、5枚ある花弁の形が星のように見えることから、ブルースターと名付けられました。
何か青いもの(サムシング・ブルー)を身に着けると、幸せになれるという西洋の言い伝えから、ウェディングブーケにもよく使われる花です。
欧米では、男の子の誕生祝いにブルースターを贈る習慣もあるといわれています。3月8日、4月14日、6月14日の誕生花とされており、この日に誕生日を迎える男性に、ブルースターの花束やアレンジメントをプレゼントするのもお勧め。花期は5月～10月頃と長く、可憐なピュアブルーがガーデンを彩ります。

●花ことば:「幸せな愛」「信じ合う心」「望郷」「星の精」
「早過ぎた恋」「身を切る想い」

●植物分類: キョウチクトウ科トウイーディア属(ルリトウワタ属)
また、ガガイモ科に分類

●原産地: ブラジル、ウルグアイ



写真で戦争の愚かさを伝え 平和のために声を挙げていきたい

相手に惚れなければ、心を開いてもらえる良い取材はできない。

写真家 大石 芳野さん

半世紀以上にわたりフォトジャーナリストとして戦争や紛争で深い傷を負った人々を撮り続け、戦争の悲惨さを訴えてきた大石芳野さん。二度と戦争を起こさないために私たちに何ができるのか?を、今も問い続けている。

写真なら男女差なく、公平にレンズを通し社会とつながれると思った

——大石さんは、写真を通じて平和を訴えてこられました。昨年10月8日に、より良い未来をつくるため、市民目線で地道にとりくんできた個人や団体に贈られる、「第8回澄和 Futurist 賞」を受賞されています。大石さんが写真家の道に進まれたのはどのようなきっかけだったのでしょうか。

父が写真好きで、カメラは身近な存在でした。日本大学芸術学部で写真を学びましたが、写真家になるという強い決意があったわけではなく、選択肢の一つにすぎませんでした。しかし大学を出て将来何になるかと考えたときに、写真はレンズを通して社会と直接つながれる手段ではないかと思いました。私は何らかの方法で社会とずっとつながっていたいと思っていたんですね。当時は男尊女卑の社会でした。写真家なら上手下手はあっても男女の差はない、公平なのではないかとも考えました。

——男性社会の中で、どのようにしてキャリアを築いてこられたのでしょうか。

女性写真家はとても少なかったので、撮影現場に



行っても「カメラマンはまだですか?」と聞かれたり、男性のアシスタントのほうをカメラマンと間違えられたりということはしょっちゅうでしたね。でも、私もその頃は気が強かったので気にもしませんでした。「女性には機材が重くて大変でしょう」と言われたら「男性でも重いのは同じです」と言い返したりね。

けれども、そういう人ばかりではなく、私のそれなりの力を認めて応援してくれる方々もいました。その

▶大石 芳野(おおいし よしの)プロフィール:

1943年東京生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業後、フリーランスの写真家として活動を開始。30代から報道写真家として活躍するかたわら自費で沖縄、ベトナム、カンボジア、ラオス、アフガニスタンなど戦禍の残る地域を取材。戦争の悲劇を人々に伝えてきた。土門拳賞(『ベトナム 凜と』)、エイボン女性大賞、紫綬褒章、澄和Futurist賞などを受賞。写真集『戦禍の記憶』『長崎の痕』など多数。近著『わたしの心のレンズ』。

方たちのおかげで私はここまでやってこれたと思います。

**国と国との戦争は終わっても
人々の心の中では戦争は終わっていない**

——大石さんがフォトジャーナリストという分野に進まれた経緯を教えてください。

写真といっても、芸術系、広告系、報道系などジャンルはさまざまで、私はどこに進もうかと迷いながら20代を過ごしました。フリーランスなので、いただける仕事は何でもこなしていました。多かったのは広告写真です。当時は高度経済成長期で、広告市場はとて勢いがありました。広告の仕事はフォトグラファーだけでなく、ディレクターやデザイナー、コピーライター、スタイリスト、モデルなど、たくさんの方々と協働で作りに上げていきます。それはそれで楽しかったのですが、なんとなく広告は合わないなと感じて、30歳できっぱり広告写真をやめ、それからは報道系の仕事一本で撮り続けてきました。

——大石さんは、戦争で傷ついた人々を多く撮られています。それはなぜでしょうか。

私は1943年の生まれです。物心がついたころには戦争は終わっていて、戦後の混乱が記憶として残ってはいるものの、戦争は遠い過去のできごとではありませんでした。

20代半ばを過ぎた頃に、東南アジアに撮影に行くことがありました。私は人の暮らしや文化に興味があり、東南アジアの人々の生活を撮りたいと思っていました。現地の工芸品が好きで現地の人に、どうやって作ったのですかと尋ねると、とても喜んでいろいろ話してくれました。村々を訪ね、人々と仲良くなると、彼らも腹を割って話をしてくれるようになります。そんな中で、「自分の村は日本軍に攻撃された」「私の



親は日本軍に殺された」という話を聞き、衝撃を受けました。私も日本の青年が赤紙一枚で戦争に駆り出されたことや、日本軍が外国で残忍な行為を行っていたことを知識としては知っていましたが、じかにその時代を経験した人から話を聞いて大変ショックを受けましたね。

**日本は都合よく忘れてしまっているが
伝えるべき事実がある**

日本はとくに戦争のことなど忘れて高度経済成長の道をひた走っている。その一方で、戦争で家族を殺され、深い傷を負ったままの人々がいる。1945年8月15日に戦争は終わったけれど、一人ひとりの中では終わっていない。「戦争は終わっても終わらないんだ」と強く思いました。この事実を伝えていかなければいけない、そんな気持ちがある時に芽生えたのです。

——それで広告写真をやめて報道写真の世界に入ったのですね。

とはいえ、生活していかなければいけないので、来る仕事は何でもやりました。若いうちに何でも経験



(◀写真左)アウシュヴィッツ強制収容所で囚人番号を刻まれた男性の腕(大石芳野撮影。1986年ポーランドにて)

◀大石さんの写真集のほんの一部。戦争や紛争などで傷ついた人たちの姿をとらえ、世の中に発表することで戦争の残酷さを訴え、戦争のない地球を次世代に残そうと訴え続けている。

をしておくことは大事だと後になって思いましたね。



やりたいことをするために 節約しお金を貯めて準備をした

自分が撮りたいものを撮るためにはお金が必要です。海外に撮影に行くには自分で旅費を稼がなければいけません。広告の仕事は報酬が良かったので、レンズとかカメラを少しずつ買いそろえ、節約して旅費を貯めていきました。男性ならスポンサーがついたりするのですが、女性はそうはいかない。たまに撮影費を前借りしたり、フィルムを無償で企業から提供していただいたりすることはありましたが、基本的には自分で働いて旅費を貯めてはあちこちに撮影に出かけました。



同時代に起こっている戦争を 見ないふりすることはできない

——危険な場所にも多く行かれています。不安はなかったのでしょうか。なぜそこまでして行こうと思われたのでしょうか。

当時は男尊女卑の社会でしたし、親は早く嫁に行けと言う。そういう中で「自分はなぜ写真を撮るのか?」ということを常に自分に問い続けていましたね。

戦地となった場所を訪ね、戦争の犠牲になった人たちを見て、「この人たちは私と同時代に生きている。それなのに知らん顔をしていられるのか?」といつも私は自問していました。これを他人事で終わらせるわけにはいかない。日本の人たちに報せなければいけない。そういう気持ちが大きかったですね。

周囲の人にはよく危ないと言われましたが、私は全く気になりませんでした。空港で海外旅行保険くらいはかけて出かけていましたが。

——海外にはいつも一人で行かれたのですか。

テレビや雑誌の仕事のときはスタッフと行きますが、それ以外は全て一人で行きますね。ただし、現地に通訳をお願いします。私は趣味で写真を撮っているわけではなく、現地の人たちと話をし、現地の現状を伝えるために行っていますから。時にはホテルもないような山の中に行くこともあります。そんな時には現地の人に交渉して、家に泊めていただかなければなりません。そういう場合に通訳がいなければどうしようもありません。



相手に嫌われたら取材はできない 相手に惚れなければ良い取材はできない

——食べ物が合わないことはなかったですか?

基本的に現地の人と同じものを食べます。私は取材者ですから、現地の人や現地の食べ物、文化が好きでなければ取材はできません。

取材はコミュニケーションなので、相手が私を嫌だと思ったら話してくれない。私も相手に惚れなければ取材ができません。

どうしても相手が撮らせてくれなければ、何回も



▶『わたしの心のレンズ
—現場の記憶を紡ぐ』

¥990

出版社：集英社インターナショナル

『わたしの心のレンズ』（集英社インターナショナル）を2022年に出版。コロナ禍で海外に行けなくなったことをきっかけに、半世紀にわたる取材活動を振り返り、自らの半生をエッセイにしたためた。



通って仲良くなったり、なぜあなたの写真を撮りたいのかということをちゃんと話して理解してもらいます。

——当協会は主に個人宅に家政婦（夫）を紹介する事業者の団体です。ときには利用者と家政婦（夫）の相性が合わないということもあります。先方が他人を家に入れることを拒んだり、家政婦（夫）の方が苦手意識を持ってしまう場合があります。そういう時に、どのようにアドバイスをしたらいいでしょうか。

やはり、相手にこちらの主旨をよく話して理解してもらうことですね。自分が何のために、何をしにここに来ているのか。こういう目的でお宅に入らせてもらいますよということを、プロとしてきちんと説明する。そして、相手を知ろうと努力することが大事ですね。家に入ることを拒絶する人は、もしかしたら心に何か大きな悩みを抱えているのかもしれない。コミュニケーションをして、少しずつ互いを理解していくしかないのではないのでしょうか。

二度と戦争を起こしてはならないと 伝えたくて突っ走ってきた

——仕事をしていると、モチベーションを維持するのが難しいと感じることがあります。大石さんはどうやってモチベーションを維持されてきたのでしょうか。

私は戦争は終わっても終わらないことにショックを受け、戦禍の人々を写真に撮ることで、「戦争は人を地獄に陥れる。だから二度と戦争をしてはいけないのだ」ということを伝えてきました。ただそのためだけに突っ走ってきました。

21世紀になってやっと平和な時代が来るかもしれないと思ったのに、ロシアのウクライナ侵攻が起り、



イスラエル軍によるパレスチナ自治区ガザ地区への攻撃が起こり、再び戦争の時代になってしまった。20世紀の戦争を世界中の人が反省したはずなのになぜそれが身につかないのか。そのことがすごく残念というか悔しいというか。私はいったい何をやってきたのだろうと。コロナでしばらく外に出られなかったこともあって、憂鬱な気分になってしまっています。

どうしてこんな時代になったのか、私たちはどうしたらいいのか、わかりませんが、ウクライナの悲劇は日本にとっても他人事ではありません。

ではどうするか。それは武器を手にし拳を上げるのではなく、一人ひとりが声を挙げること。きちんと姿勢を正すこと。時々意気消沈することはあるけれど、自分で自分に「がんばりなさい」と発破をかけながら、声を挙げていくしかないのだと思います。

実は戦争がキーウで始まった2022年以降のウクライナに行くことができていません。もう年をとって走るのも遅くなったので、何かあって逃げなければならない時に転んだりしたらみんなに迷惑をかけるのではと思うと一歩を踏み出す勇気が出ないのです。もどかしい想いで遠くから祈るだけです。

武器ではなく声を挙げること それが平和のためにできること

——平和があってこそその生活ですし、平和でなければ私たちの仕事も成り立ちません。平和のために私たちは何ができるのでしょうか。

一人ではできないけれどみんなが集まれば何かができると思うんです。小石も一つでは小さな存在です



が、たくさん集まれば岩にもなるし広場にもなる。

ベトナムの建国の父といわれるホー・チ・ミン氏は、1946年のインドシナ戦争において、フランス軍を撃退したことで知られています。その方法はまさに「小石も集まれば力になる」ことを示すものでした。

フランス軍の船が大量の武器を積んでベトナムに入港しようとしたときに、ホー・チ・ミン氏は民衆を集め、力を合わせて貨車のレールを外すという大胆な作戦に出たのです。フランス軍は武器を運ぶことができず戦うことができませんでした。

その後、結局はフランスの上陸を許してしまうのですが、1954年にベトナムが勝利しフランスからの独立を果たしました。ベトナムはその後ベトナム戦争でも、民衆たちの力で大国アメリカに勝利します。

そこに大きなヒントがあります。まず私たちは、世界で何が起きているかを知ること。そして一人ひとりが声を出していくこと。それしかないのではないのでしょうか。

——大石さんの今後の目標について、教えてくださいませんか？

人生100年時代といわれますが、写真家人生はそう長くはないと思います。写真家人生の中でやりのこしていることはいくつもあるので、それらをこれまでどおり継続していく。すべては終わらせられなくても、いくつかはピリオドを打つところまでは到達したいですね。

(インタビュー／高橋和子
写真／戸井田夏子)



令和5年度「家政士」検定試験では76名の方々が合格! 全国で「家政士」資格を持つ人は、839名となりました。

2023(令和5)年11月18日(土)、令和5年度の厚生労働大臣認定「家政士」検定試験が、全国の7会場(千葉、東京、横浜、福井、静岡、尼崎、北九州)で実施されました。今回も各会場において新型コロナ感染防止対策を徹底して講じました。各試験会場から回収された学科試験解答用紙と、実技試験の判定結果をもとに、合否判定委員会の厳正な合否判定が行われ、本年1月31日(水)に76名の合格者が発表されました。

意欲的に試験に挑戦した

58名「家政士」の資格を獲得!

今回の受験者数は98名。76名の方々が合格され、合格率は77.6%とこれまでで3番目の水準でした。

合格者のうち会員紹介所の求職登録者58名に家政士の資格が授与されました。これにより、全国で合計839名の家政士が誕生したことになります。

合格された皆様の今後の活躍に期待しています。

令和6年度の検定日程は11月16日(土)

推進・呼びかけ・育成をスタートしましょう。

令和6年度の検定試験の日程も決定(下欄参照)しています。周知に力を入れ一人でも多く技量向上・社会的信用に結び付く「家政士」検定試験に挑戦いただけるよう、呼びかけと広報に取り組みましょう。

政府与党やマスコミ等で、家政士に関心が高まってきており、家政士検定試験は、社会の認知が着実に進展しています。

一般の方や学生の方にも、この検定試験の存在を広く紹介し、「職業選択範囲の可能性拡大」に結びつく資格として、挑戦者がさらに増えていくことを願っています。

会員の皆様には紹介所に求職登録している家政婦(夫)さんが一人でも多く受験されるようおすすめいただき、激励をお願いいたします。

学生・一般の方々へのさらなる認知拡大で 受験への挑戦を推進して参りましょう!

この資格の取得は、若い方々が将来社会で自立して生きていくための基本的な生活知識を身につけられるものです。「総合的人間力」を磨く最適な学びの機会となるはずです。

会員各位のお知り合いに加え、近隣の大学・教育機関などに、ぜひ家政士試験の存在をご案内いただき、多くの方々の受験を推進していきましょう。

▼「家政士検定試験」会場の様子



▼▶家政士検定試験に合格すると合格証と家政士章が交付されます



今年の試験日程(予定)

学科試験

令和6年
11月16日(土)

実技試験

令和6年11月16日(土)~
22日(金)のいずれか1日

※検定試験の詳細は、令和6年8月初旬に公表します。

コロナ禍脱出の今！ 新しい時代の動きをキャッチしよう！

2020年3月に外出の自粛を求めた緊急事態宣言から、2023年5月に5類感染症に移行されるまで、3年以上のコロナ禍による自粛が続き日常生活から働き方・学び方・経済活動等あらゆる面で大きな影響を受けてきたが、2024年に入り、やっとコロナ禍を脱出し新時代を感じさせる動きが目立ってきた。

■ 変化を敏感にキャッチし、頭を切り替え、 ■ 時代に対応したアイデアや対策が必要！

コロナ禍を脱出し、今どんな新たな状況がやっ
てきているのか？ をまず確認しておこう！

- **諸物価の上昇**：食料品をはじめあらゆる物価が上
がってきているものの内需は伸びていない。政府と日
銀は、日本経済のデフレ脱却を目指している。
- **働き方の変化**：対人接触を避けるためリモートワ
ークが増加したが、リアルに戻す傾向も見えてきて再
び大都市への人口流入傾向も出てきている。
- **求人倍率の上昇・人不足へ**：コロナ禍脱出ととも
に人不足の状況。外国人労働者へのニーズが高ま
っている。人材確保のための賃金が上昇傾向にあ
る。
- **インバウンド旅行客の回復**：訪日客は1月に268
万人余で台湾・韓国が好調。コロナ前並みに回復
している。その結果、地方経済が潤い始めている。
- **春闘・賃上げラッシュ**：春闘の労使交渉では、
ホンダが2万円の賃上げ、マツダは、1万6000円の

ベースアップ満額回答。派遣の時給は1.9%高に。

- **史上最高値に株価上昇**：2月22日に日経平均株価
がバブル期超えの高値となり、経済界は失われた30
年を脱出した！ と沸き立っている。

■ 新しい時代の到来に、我々の業界が ■ 考えておくべきことは何か？

株価上昇によって富裕層が増加する事が考えられ
る。またインバウンドの回復で地方経済も潤い始めて
いる。このことは家政婦（夫）に仕事を依頼できる
富裕層や忙しい育児中の人々増えることを意味して
いる。幅広い業務を依頼できる家政婦（夫）という
職業の魅力的なイメージづくりを多角的に強化してい
く必要があるだろう。

現在NHKの朝の連ドラで、育児と家事を依頼でき
る有能な家政婦さんが登場しているのは職種イメー
ジ向上のチャンスといえる。経済界全体が活性化す
る今後に向かって、賃金アップもより柔軟に工夫し人
材確保に力を入れていきたいものである。



SDGウェディングケーキモデルを念頭に置き、日々の心がけを大切に!

看護・家政・育児の仕事はSDGs(持続可能な開発目標)に大きく関わる仕事です。

家事全般の水や電気の節約 目標⑥⑦に加え、

人々の健康 目標③に関わる海や陸の食材選択 目標⑭⑮の食事作りなど、

日々の心がけが地球温暖化防止に繋がっています。



現状の日本は、連携が不足しているために5つの赤信号の課題があります。

上の図は、赤が「最大の課題」。オレンジは「重要課題」。黄色は「課題が残っている」。みどりは「達成できている」ことを表しています。

現状の日本の最大の課題は以下の5つで、まだまだパートナーシップの連携を強めて目標達成に挑戦する必要があります。

- 目標⑤「ジェンダー平等を実現しよう」
- 目標⑫「つくる責任 つかう責任」
- 目標⑬「気候変動に具体的な対策を」
- 目標⑭「海の豊かさを守ろう」
- 目標⑮「陸の豊かさも守ろう」

地球規模の持続可能性に関する研究で国際的に高く評価されているスウェーデンの研究者ヨハン・ロックストーム博士は、SDGsの17の目標をウェディングケーキになぞらえ3つの階層が密接に関わり合っていることを理解できる方法「ウェディングケーキモデル(下図)」を考案しました。

経済・社会・環境の3つの層に分けると全体の関係性がわかりやすくなる

このケーキの最下層は、「環境」、その上に「社会」があり、その上に「経済」が位置付けられています。つまり一番下の「環境」(目標⑥安全な水とトイレを世界中に。目標⑬気候変動に

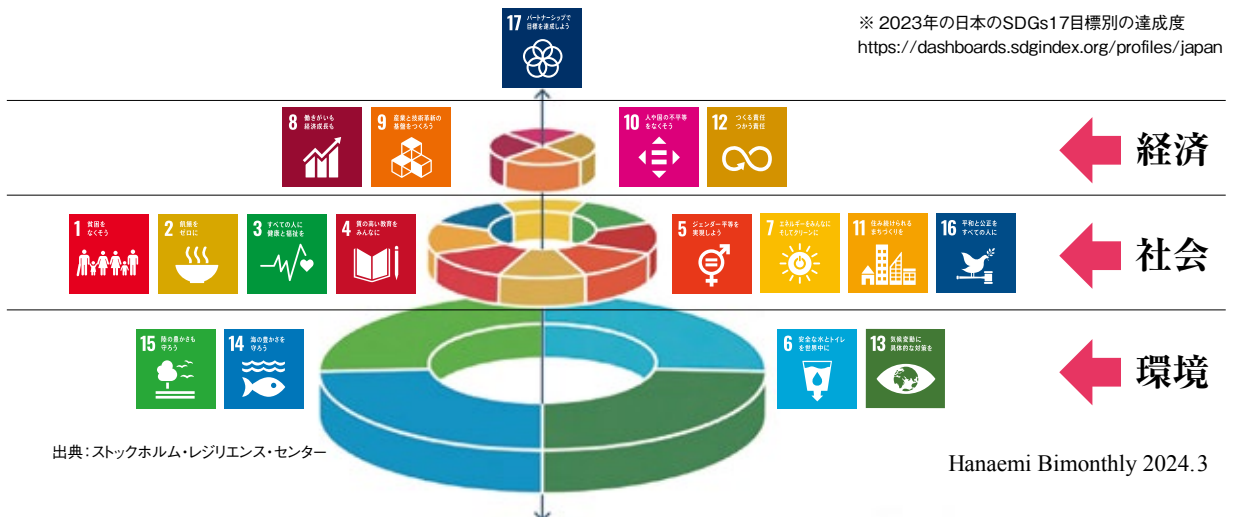
具体的な対策を。目標⑭海の豊かさを守ろう。目標⑮陸の豊かさも守ろう)には、私たちが地球上で暮らす上で、欠かせない海や森林や気候変動についての目標が入っています。

次の真ん中の層の「社会」(目標①貧困をなくそう。目標②飢餓をゼロに。目標③すべての人に健康と福祉を。目標④質の高い教育をみんなに。目標⑤ジェンダー平等を実現しよう。目標⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに。目標⑪住み続けられるまちづくりを。目標⑯平和と公正をすべての人に)では、私たち人間が不自由なく生活し、働いていける世界を創るための8つの目標が含まれています。

その上の「経済」(目標⑧働きがいも経済成長も。目標⑨産業と技術革新の基盤をつくろう。目標⑩人や国の不平等をなくそう。目標⑫つくる責任 つかう責任)では、社会で働く人々の働きやすさや人や国に対する差別や偏見をなくすことが世界の経済発展に繋がるとしています。

そして頂点には、目標⑰の「パートナーシップで目標を達成しよう」が位置付けられています。

組織や世代間の上下や関連業界への働きかけ、川上川下の仕事の流れや影響を見極め、関係する人・組織・取引先などと連携しながら取り組みをスピードアップさせていきましょう!



出典:ストックホルム・レジリエンス・センター

物価高の中、タイミングの良い賃金改定を行い 家政婦(夫)求職者の確保と定着を!

令和5年度の運営セミナーは「賃金引き上げ等による家政婦(夫)求職者の確保について」をテーマに全国9ブロックで開催されました。関東ブロックでは、12月14日に東京 四ツ谷の主婦会館プラザで開催され、23会員紹介所から24名の方が参加されました。セミナーの様態をご紹介します。

参加者の好評を得た賃金引上げの 好事例とモデル賃金設定の紹介

樋田栄子関東ブロック長の挨拶の後、賃金引上げ等による家政婦(夫)求職者の確保について賃金引上げの好事例やモデル賃金設定の紹介が行われ、教育研修委員長の奥村直樹氏、教育研修委員の酒井ひろみ氏・生形千絵氏が講師となって賃金の現状と引上げに向けた活動が具体的に紹介された。

まず、どれだけ賃金改定を行うかに当たっては、

①物価指数の上昇率、②最低賃金額、③介護ヘルパーの賃金額、④近隣の紹介所の求人賃金額、⑤近隣の家事代行業所のサービス料金などを考慮して、決定することが重要であることが説明された。また、新規の求人に引き上げた賃金によりお願いするケースと、既に働いている家政婦(夫)について賃金の引上げをお願いするケースそれぞれのメリット、デメリットが説明されるとともに、会長名の要請文書がとりわけ有効だったとの話があった。

また、賃金引上げにより、応募者が増えたことや、求職登録者の定着が図られたなどのメリットがあったことも紹介された。

次のプログラムでは、採用サイトを使った求職登録というテーマで(株)求人ジャーナルの斎藤良一氏が講師となって媒体掲載の事例紹介や求職ターゲットの状況と応募行動がわりやすく語られ、媒体掲載後の反響事例等が紹介された。

参加者の声

(有)中央介護・家政職紹介所 山本美知子さん

この運営セミナーに参加して、他の事業所でのお客様にいただく料金や、働く人に支払う賃金、そして働く形態の実情を知ることができて良かったと思います。私たちの業界は人手不足なので、やっと仕事を身につけて、良い人間関係が出来上がっても、しばらくすると高齢になり辞めてしまう方がおられるのは大変残念です。

今の若い人たちは、長時間の仕事ではなく、食事作りとかお掃除とか仕事内容を分けて家事代行に依頼する傾向があります。そのために長時間の勤務は不要で、短時間の勤務が増えてきています。紹介所にとって嬉しいのは、長時間勤務や夜勤の仕事なので、家事代行より幅広い仕事が頼める家政婦(夫)の働き方の認知拡大が必要だと感じています。実際に高齢の方々の場合は、部分的な仕事だけでなく話し相手を求めておられる方も多いためです。一人暮らしの高齢者の方は、日常的に会話することで、気力・体力・知力の維持が可能になります。ペットの世話や散歩の同行など家政婦(夫)の魅力的な仕事範囲を社会の方々に広く知らせて、長時間のニーズを掘り起こしていくことが必要だと感じています。





運営セミナーを受講して

賃金引上げについては昨年看家協会からの「賃金引上げ依頼状」を求人者に示し時給で6%値上げが実現でき、また新規の依頼に対しては地域の相場をみて12%アップで提示しています。物価の上昇率や経済の風向きをみながら常にバランスを取っていかねばと気付かされました。WEBによると求人広告の利用については、仕事の探し方の分からない求職者や夜間早朝からでも隙間時間に応募ができるシステムは若い年齢層を獲得し応募者数を増やすために大変有効なことは理解でき、トライしてみるべきだとは思いますが勇気が出ません。今迄もセミナーのテーマは参考になりましたが、積極的に取り入れてはできませんでした。それは私の経営気質が旧態然としているからであり熟考が足りないからだと自覚しています。登録家政婦(夫)の平均年齢60歳代の頃から変わっていないのだと思います。当然家政婦(夫)は高齢化、在宅介護・病院付き添いの減少、逆に重度要介護者短時間家事の増加。この変化に何の手も打ってこなかったことの反省しきりでしたが新しいことにトライすることができませんでした。今更ながらですがそこを刷新しなければと思っています。(投稿 匿名の方より)

★皆様からの投稿をお待ちしています。(掲載文の執筆者には粗品進呈!)

お便りとお号のご感想・要望など看家協会事務局(E-mail: post@kanka.or.jp)まで、メールでお寄せください。また郵送の場合は協会(下記)までお送りください。

〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2

公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会 はなえみ投稿係

編纂委員会 (50音順、◎印委員長)

板井仁志、古賀道、渋谷洋子、◎清水保人、高橋和子、茂木芳枝
渡邊嘉子(編集顧問)

編集後記

大石芳野さんのインタビューを終え、この争いの絶えない世の中で私たちに何ができるのかと自問しました。①メディアを通し映像を見るだけでなく記録された写真やルポルタージュまたその分野の本などいろいろな方法で、現状や被災者が受けた悲惨な状況を知ること努める②私たちにも起こりうるし、加害者にもなりうるという想像力を働かせる③争いの残酷さに対して常に感性を磨いておかなければならない、と考えます。子供たちを決して戦場に送るようなことをしないために。取材を終え大石さんはエントランスを降り私たちを吉祥寺通りまで見送ってくれました。世界各地で信頼関係を築きながら取材を続けてこられた大石さんの人柄を感じました。著書「私の心のレンズ」おすすめです。(編纂委員・高橋和子)

適度な筋トレができる仕事は、健康寿命を延ばすんだって!

- 最近、NHKの朝ドラを見ていたら、家政婦さんが登場して、すりこぎ使った料理をつくり、女の子の食べ物の好き嫌いをなくてあげたりしてたわよ。
- 家事代行の場合は決められた仕事範囲だけど、家政婦(夫)の場合は人生経験を生かした柔軟でアイデアフルな仕事ができるんだ。
- 家政婦(夫)さんの人間力が、いろんな家庭のお困りごとを解決していきけるのね。
- この機会に、おばあちゃんの知恵というのがもっと見直されるべきだと思うな。
- ところで最近はモップを使うより、拭き掃除の方が体に筋肉がつくからいいって! 筋肉を使うと癌や認知症の予防にもなるって!
- 風呂掃除とかガラス磨きとか、家事って、体のいろんなところを動かす仕事だから適度な筋トレで健康寿命を延ばせるね。



看家広報 はなえみ155号 Hanaemi Bimonthly155
2024年3月25日発行

発行 公益社団法人 日本看護家政紹介事業協会
〒162-0064 東京都新宿区市谷仲之町3-2

TEL 03-3353-4641

FAX 03-3353-4326

URL <http://kanka.or.jp/>

E-mail post@kanka.or.jp

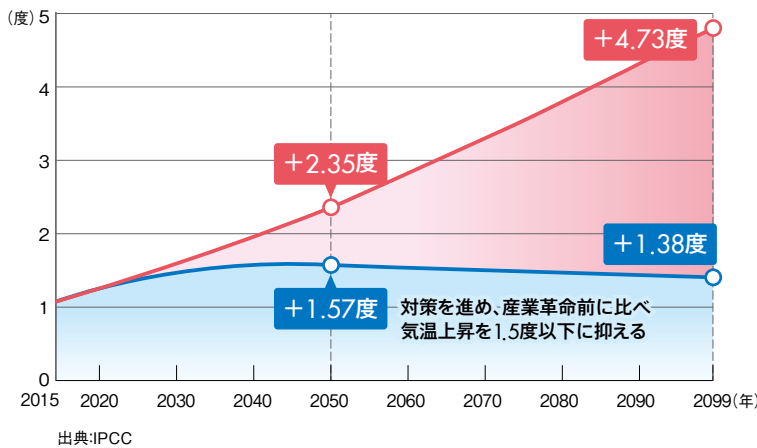


制作会社: 株式会社ヒューマン・コミュニケーション研究所
〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷3-7-14ライオンズ原宿402
研究室: 〒104-0045 東京都中央区築地2-15-10-1602
TEL: 03-3545-8038
E-mail: yoshiko.w@human-c-labo.net

住みやすい環境を創るために、一人ひとりの地球温暖化への対策が必要な時代に入った。

日本だけでなく世界の多くの地域で、地球温暖化による気温上昇によって熱中症の死亡者が増えている。特に高齢者は要注意である。世界各国が温暖化防止策に取り組むことが肝要だ。地域の緑化、自家用自動車から公共交通機関・自転車・徒歩への切り替え推進、省エネ製品の選択、過剰な冷暖房を避け使用していないコンセントを抜くなど、日常行動の見直し改善を進める活動が求められている。

◆温暖化への対策を取らなければ気温は大きく上がる



●桜の開花も早まる予測(東京)

2023年より +2度だと
→ 3月11日開花(予測)

2023年より +1.3度だと
→ 3月12日開花(予測)

平年 3月24日開花

注意:2月からの日々
の最高気温を累計して、
600度を超える時点で
開花と想定
出典:日本経済新聞



●気温が上がれば 8月は猛暑日が多くなる(東京)

	1日	2日	3日	4日	5日	6日	
2023年気温▶	33.2度	34.7度	35.0度	36.7度	35.9度	34.8度	
+2.0度の気温▶	35.2度	36.7度	37.0度	38.7度	37.9度	36.8度	
	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日
	34.9度	35.9度	31.8度	34.4度	35.0度	35.5度	32.9度
	36.9度	37.9度	33.8度	36.4度	37.0度	37.5度	34.9度
	14日	15日	16日	17日	18日	19日	20日
	32.9度	32.8度	32.2度	34.5度	34.6度	35.7度	35.3度
	34.9度	34.8度	34.2度	36.5度	36.6度	37.7度	37.3度
	21日	22日	23日	24日	25日	26日	27日
	34.8度	32.1度	34.1度	34.1度	34.4度	33.4度	32.4度
	36.8度	34.1度	36.1度	36.1度	36.4度	35.4度	34.4度
	28日	29日	30日	31日			
	34.6度	35.0度	34.6度	34.1度			
	36.6度	37.0度	36.6度	36.1度			

猛暑日

◆東京の75歳以上は250万人超に

